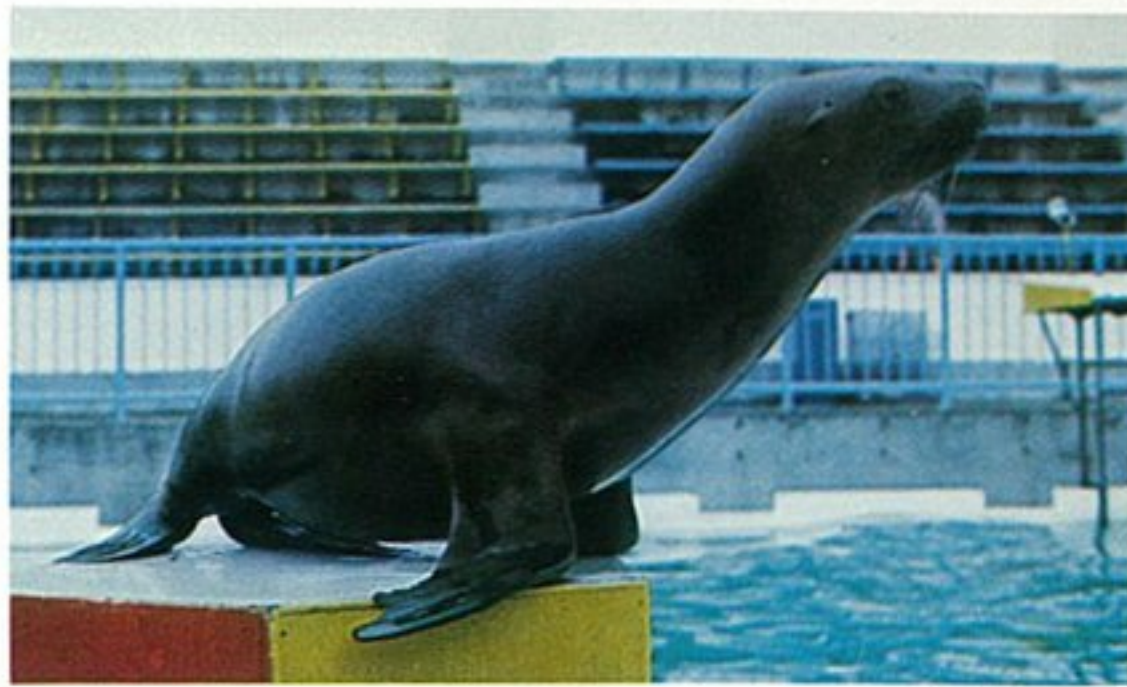
シーワールドのアニマル達

◎ オタリア

以前この欄でトドを御紹介しましたが、今回は、そのトドに良く似たオタリアをトドと比較しながら御紹介してみましょう。

オタリアは、カリフォルニアアシカの代替種として1973年にペルーより輸入された飼育歴の浅い動物です。当館で飼育中のオタリアは、体重45kgですが成獣になると500 kgにもなり、丁度当館のトド位といえます。トドが雄の場合1000kgにもなることと比較すると小さいのですが、アシカよりは倍近い大きさになります。トドとオタリアは、特に幼獣の頃は顔付きも似ており、また雄の成獣では首から肩にかけ、たてがみのようなものがトドよりも目立ち、この点ではオタリアの方が不気味な感じを与え、いかにもシーライオンという名前があてはまります。トドが北太平洋岸に棲息するのに対し、オタリアは南アメリカ東西両沿岸に棲息しています。オタリアは、アシカと同様の芸を覚えショーを行なっていますが、性格は、気が強く反面神経質な面があります。これからも飼育下におけるオタリアと他のアシカ科の動物達との相違を観察していきたいと思っています。

（オタリア）

（長崎記）

昭和51年度　夏季催し物について

長い梅雨も明け、いよいよ夏のシーズンが来ました。今夏楽しく、大きい夏を鴨川シーワールドで過していただこうと次のような催し物を企画いたしましたのでお知らせいたします。

ビッグサマープレゼント

1. ハワイアンショー
   家族揃ってフラのリズムを楽しんでいただくように企画しました。
   バンド　辰木義武とシーブリーズ
   　　　　プアナニ内盛とそのグループ
2. プレーイングコーナー
   等身大の動物ぬいぐるみ、及びパンチングボール等、約30種のあそび道具を揃えておりますので自由にあそんで下さい。又カニのつかみどりコーナーも設置しました。このコーナーは皆さまが自から手にとって見て肌で感じていただくコーナーですので、自由におあそびできるようにしてあります。思うぞんぶん楽しくあそんで下さい。
3. 黒ん坊大会
   ジャンボロータリープールにて、8月15日、午後1時より、夏休みにどれだけ黒くなったかを競うコンクールを行います。賞品もたくさん用意してありますので、我こそは、と思う人は、多数参加して下さるよう、お待ちいたしております。
4. サマースクールの開校
   海の生物に触れてみよう！
   魚やカニにエサを与えてみよう！
   君たちは今日、鴨川シーワールドの、一日飼育係！
   スケジュール

対象学年	期　日	時間	人員
小学校3.4年	8/2. 8/5.	10時～14時	各20名
〃　5.6年	8/3. 8/6.	～	〃
中学校1.2年	8/4. 8/7.	〃	〃

   各回20名で申込制をとっておりますので、満員の場合は〆切ります。
5. その他
   タッチング水槽
   魚、海藻、イソギンチャクなど、海の生物を、手でさわって実際の感かくを知ってもらうコーナーです。

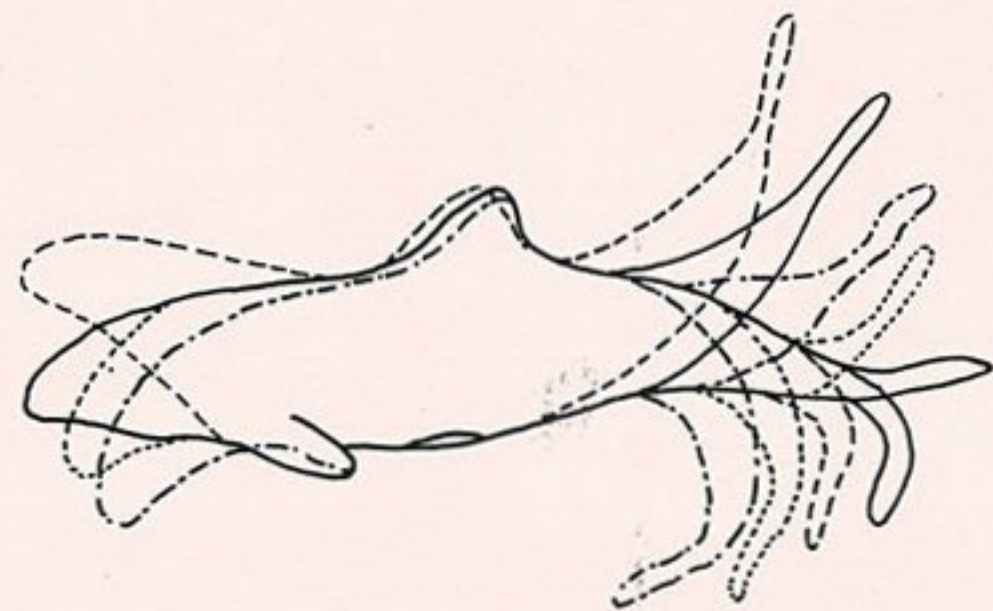
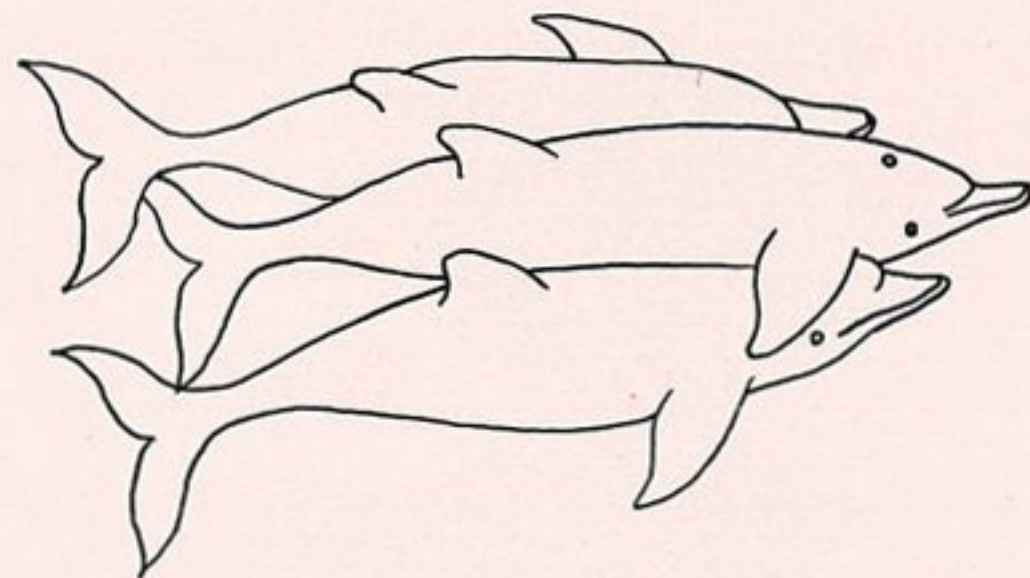
以上夏の催事について、ご案内いたしましたが、動物ショー関係も夏にふさわしいショーを、ごらんになっていただくために内容を変更し、多数の皆様に楽しんでいただけるようイルカ、アシカ君達もハリキッテおります。

表紙説明　おきごんどう（シャチモドキ） *Pseudorca crassidens*

オキゴンドウは、全身黒色で、口は大きく、イカ類やかなり大きな魚類も食べている。世界中の暖かい海に生活しており、マグロ延縄漁業で俗に"シャチ害"と呼んでいる例を調べると、本種の場合が多い。写真はレオ（体長3ｍ64cm、体重 566kg、雄、昭和51年1月7日計測）のジャンプ。ショーでは、観客へのキスプレゼントを始め、数10種の芸を行なっている。（榊原記）

南房総国定公園
鴨川シーワールド
千葉県鴨川市東町1464—18　TEL 04709 (2) 2121

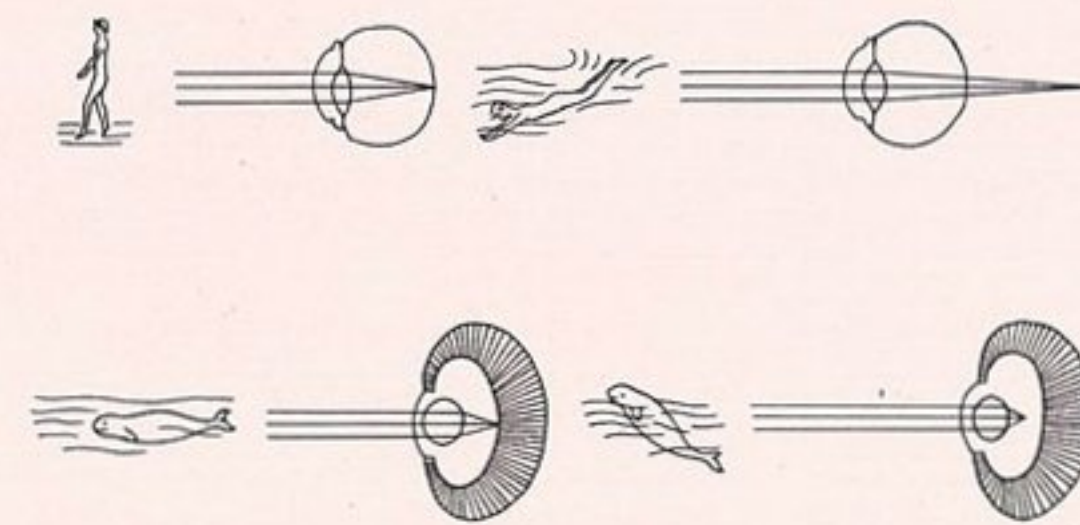
さかまた

生物の豆辞典　NO.9

●イルカの身体の垂直方向への可動性を示す実験
(シュライバー、1936)

●負傷した仲間を支える２頭のバンドウイルカ
(シープネーラーとコールドウェル、1956)

●ヒトとシロイルカの眼で大気中と水中における入射光線の進路と焦点を示す。
ヒトは水中では遠視となり、シロイルカは大気中では近視となる。

(前…カマイルカ　後…バンドウイルカ)

◎イルカの生態……(イルカの生活)

イルカは、海の哺乳動物であり鯨の仲間だということは良く知られている事ですが、このイルカ達が自然の海にいる時には、どのような生活をしているのか知っている人はあまりいないと思います。今回は、私達の良き友人であるイルカ達の生活について今までに分っている事をお知らせしてみることにしました。そもそも私達がイルカの生活を知る事になった最初のきっかけは、イルカの飼育を始めてからの事です。それまでは、捕鯨業者、漁師、船乗りといったイルカの棲んでいる海に関係のある人々の断片的な知識、あるいはその他の人々による偶然の観察しかありませんでした。しかし最近になって、イルカを飼育できるようになると、今まで分らなかったイルカの行動や生態などについて積極的に研究調査されるようになりました。その結果次のようなことが分ってきました。イルカとはひげ鯨と歯鯨に分かれる鯨類の中の歯鯨に属する動物で体長が５ｍ以下の小さいものを呼ぶ名称でその種類は約70種ほどが数えられていますがその内の大部分は海産です。
しかし３種類だけは、当館で飼育中のアマゾンカワイルカのように淡水の河や湖だけで生活をしています。このように多くの種類があるイルカ達は、形態、分布、生態等がそれぞれ異なっているとはいうものの基本的な生活については共通しているといえそうです。
イルカの生活は一生を水中で過し、体の後方にある平たく水平な尾鰭を上下に動かして自由に泳ぎます。胸鰭はカジやブレーキの役目をしていますが、元々は私達と同じような手の働きをしていたようです。
その証拠には、鰭の中に５本の指骨が残っています。
泳ぐスピードは、普通に泳いでいる場合には時速12kmほどですが、餌を追いかけたり敵から逃がれたりする場合には、最高時速30～40kmにも達することが出来ます。又イルカは水中を泳いでいますが、空気呼吸である為必ず水面に浮上して呼吸をしなくてはなりません。普通１分間に２～３回呼吸をしますが深く潜っている場合には、4分間も息を止めていられるのです。大きな鯨の場合は、マッコウクジラで１時間以上、キタトックリクジラで２時間も潜水できるということです。潜水する深さは、マッコウクジラでは最高1134ｍ、イルカは300ｍという記録があります。では水中で生活しているイルカはどのように体を休めたり寝たりするのでしょうか？実際に海での調査や観察がありませんのでよく分りませんが、飼育しているイルカでは、ゆっくり静かに目を閉じて泳いだり、また静止して浮いていたり水面下に停止していて呼吸の時にのみ浮上しまた静かに水中に沈んだりする行動が観察されています。しかしいずれにしろ熟睡することはなく、何かあるとすぐに眼をさます仮眠状態で休んでいるようです。
イルカ類の餌は、主に小魚やイカ、エビ類などですがこれらの餌をイルカは先の尖った鋭い歯で捕えて丸のみにして食べます。しかし餌が美味か不味かについては、舌にある味雷という味を感ずる感覚器が退化してしまっている為、どうも感じていないようです。
それでは味覚以外の感覚器はというと、イルカは水中生活をしている為か嗅覚も退化してしまっているようです。しかし他の感覚器官としての視覚、聴覚、触覚は存在し特に聴覚の発達は素晴らしく私達の感知できない超音波と呼ばれる20KHZ以上の高周波も聞くことができるのです。又一方このような高い音を発して餌や障害物を探る能力も有しています。ですから真暗な夜や目隠しをされた時でも平気で障害物に衝突せずに自由に泳ぐことができるのです。またイルカは低周波の鳴き声を出してお互いに会話をしているように思えますがイルカ語についてはまだ不明な点が多いようです。海の中ではイルカ達は良く群をなして集団で移動していますが、これは餌や適した環境を求めたり、子を産み育てたりする為の必要性からと考えられています。イルカの寿命は約25年ですが、イルカの年令の３倍が私達人間の年令に当りますから人間の年令になおすと75才位まで生きることになります。イルカは生まれてから立派な大人になるには８～10年かかります。子イルカは、母イルカのお腹の中に12ケ月いて、生まれる時は当館での飼育下の観察によれば、必ずもう一頭の叔母さんイルカが付き添い、生まれた子イルカの面倒を母親と一緒にみていました。
この叔母さんイルカは、乳母としての役目をはたし子イルカが生まれて呼吸に浮き上がれなかったり、壁に衝突しそうになる時など吻で子イルカを突いて水面に押し上げたり母イルカとの間にはさむようにして誘導したりして種々の面倒をみてくれます。子イルカは約６ケ月の間母イルカから乳を貰って飲みますが乳は水中に噴射されるようにして子イルカの口の中に出されます。６ケ月目頃より小魚等を食べるようになり次第に乳離れを始めます。そして２年目になると母イルカから離れ年令の若いイルカだけでつくられた群での生活をはじめます。この群の中には、ちゃんと階級があり１頭のリーダーイルカがいるのです。普通は高年令の雄がなりますが雌や若年のイルカの群では、大きな雌か最年長の雌がリーダーとして群を統率していることもあります。そして仲間が負傷したりするとすぐに助けてやったり、また害敵(シャチやサメ)から弱いイルカを守って逃してやったりするなどの相互扶助が行なわれています。こうしたイルカの海での生活については、まだまだ知られていない事が多くイルカの飼育はこれらまだ分らない事などを解明することもその目的の一つで、係員によってイルカの行動が注意され、イルカの生活を探ろうと日々努力がなされているのです。皆さんも機会があればこうしたまた未知のイルカの生活を観察しにシーワールドや他のイルカを飼育している水族館などへ出向いてみてはいかがでしょうか？

(平塚記)

トピックス

◎タツノオトシゴ

魚の名前を調べてみますと、なかには大変考えさせられる名前にぶつかることがあります。タツノオトシゴもその一つで、別に竜の落した子ではなく、海に棲む魚なのです。同じ仲間にヨウジウオ、カミソリウオ、ヤガラ、ヘラヤガラ、サギフエ、ヘコアユなどがありますが、どれも面白い名前が付けられています。タツノオトシゴの名前の由来はその姿が想像上の動物である竜に似ているところから来ているのですが、欧米では顔付きが馬に似ているためSEA HORSE(海の馬)、中国では海馬と呼ばれています。

このタツノオトシゴを飼うのには、生きた餌さえ手に入れば簡単に飼えます。当館ではイバラタツを展示していますが餌料生物としてアルテミアや熱帯性淡水魚のグッピーの稚魚、ヌマエビの稚エビ、ミジンコなどを用意しています。タツノオトシゴを飼うということは、餌料生物を多量に飼うことになります。

(イバラタツ)

(榊原記)